

北埼玉に注射剤専用2号棟

24年稼働、生産能力倍増

高田製薬は、北埼玉工場（埼玉県加須市）に建設中の注射器専用の2号棟を今冬に竣工、2024年2月の稼働を目指す。約100億円を投じ、導入する最先端の設備と技術により、高品質の高薬理活性製剤を製造する拠点を構築する。注射剤の生産拠点の国内回帰、分散化、複数ライン化、増産体制を整え、安定供給体制を強化する。



高田社長

もう一つの展開が、5月に発表したセオリアファーマとの資本・業務提携。高田が強みとする小児科領域、セオリアが強みとする耳鼻咽喉科領域は、製品、治療領域が重なり補完しやすく、安定供給にも資する。

け治療用アプリなど、様々な形で治療貢献に挑戦して事業拡大を図る。が、や々もに規模を求めるのではなく、小児科、耳鼻咽喉科の領域で集中して進めた」と語る。

「私たちはないアーティストを、
アーティストを持つ会社」と、患
者様を中心としたモノづくり
のコトづくりを進めたので
ある。何かをする、という
より、何かができるので
はないかという思いで参
画した」と参画の意図を
説明する。

先発品にない剖形など
特徴ある製品で小児科、
耳鼻咽喉科領域で確固た
る地位の確立を図るが、
そのために高田氏は、製
品の開発、販売に加え

会をしたり、新たな手法でより迅速に、より正確に、満足度を高められるよう取り組んでいる」と話す。

2号棟の生産能力は高活性バイアル、一般無菌バイアル共に年間500万本超。高田浩樹社長は、「今、強く求められている増産体制に加え、P I C / S G M Pへの対応、海外供給も考えると、工場を新設し、生産能力を高めることが必要だ。最新の生産設備とラインアライソレーターを装

高田製薬

備した無菌管理と封じ込めを実施する。この規模の工場は国内にはあまりなく、品質、生産量ともも国際的に十分な競争力を持つ」と自信を見せる。

事業の強化につながる
00万本と倍増する。
より、全工場を合わせた
注射剤の生産能力は、将
来に備えたフロアの活用
を含めると合計で年26
踏まえ製造体制を強化し
てきた。2号棟の稼働に
か高い信頼もあることも

のドラッグリボジシニングによる新薬創出など、新規事業を視野に入れる。

高田氏は、「私たちは自治体やアカデミアと連携し、医療課題の解決を図る取り組みにシェアメントセンターが参画したのは初めて。

状態を少しでも早く解消すべく幸手工場でも増設を進めているが、機械が入って来ず遅れている。品質管理も自主点検し、必要なところに人材確保、異動を含め体制強化に努めている」と現状を明かす。

面談は9時～17時（土日祝と同社休業日除く）、面談受付は24時間可能。高田氏は「医療従事者の方が面談したい時に面談できるようにした」と、ウェブを使った説明がある。

安心してお使いいただけ
るよう、その上で医療現
場の皆さまが自信を持っ
てお勧めされ、患者様に
は弊社の製品は飲みや
すいと言っていたたける
よう、信頼回復に向け取
り組んでまいります」
と訴えた。

北埼玉に、注射剤専用2号棟 24年稼働、生産能力倍増

高田製薬は、北埼玉工場（埼玉県加須市）に建設中の注射剤専用の2号棟を今冬に竣工、2024年2月の稼働を目指す。約100億円を投じ、導入する最先端の設備と技術により、高品質の高薬理活性製剤を製造する拠点を構築する。注射剤の生産拠点の国内回帰、分散化、複数ライン化、増産体制を整え、安定供給体制を強化する。

高田社長

提携では、研究開発、製造、販売の各段階での協業を推進し、シナジーの創出を目指す。小児科、耳鼻咽喉科の領域で

新規事業として、アストラゼネカが立ち上げたオーブンイノベーション「ニシアチブ-i2.JP」への参画も注目される。

一方で増産も急ぐ。高田氏は、「限定出荷

先発品がない割合など、様々な形で治療貢献に挑戦して事業拡大を図るが、やみくもに規模を要求する企業中心となるモノづくり、コトづくりを進めた結果、医療従事者の方々が必要とする情報の発信が重要だ」と述べる。そこで4月、約90人のMRに加え、Zoom面談を行う「TAKATAオンライン専任MR」を新設した。現在4人体制だが、

もう一つの展開が、5月に発表したセオリアファーマとの資本・業務提携。高田が強みとする小児科領域、セオリアが強みとする耳鼻咽喉科領域は、製品・治療領域が重なり補完しやすく、安定供給にも資する。

提携では、研究開発、製造、販売の各段階での協業を推進し、シナジーの創出を目指す。小児科、耳鼻咽喉科の領域で

最後に医療現場へのメイドセージとして、「ジェネリック医薬品業界は、品質と安定供給の問題で信頼を損ねてしまい、申し訳なく思っています。

弊社としましても、できるだけ早く限定出荷を解消し、品質・供給の面で